

先 德 餘 香

後學南條文雄集記

閑居初冬

香月院深厲講師

影ほそく氷そめけりさびしちは、きのふにまさる蓬生の月。

無 題

海士小舟こほる入江をさす棹に、つれて碎くる音のさむげさ。

布界英衲業おはりて老師の本へ歸省するを送りて

別れ行く錦の袖は夜ならで、こしちの雪や光そふらし。

辭 世

おもはずも迷のはては盡にけり、さどりの岸は今日や明日やと。

大谷貫主の還曆を祝して

雲華院大含講師

はかりなき命の國へしるべして、君が六十路の春ぞうれしき。

郭 公

ほととぎすまたるゝ身には夏の夜の、ながくしくも明方の聲。

東福寺にて

夏きても鶯かほる谷の寺。

背面達磨圖讚

本來の面目見タラコチラムケ。

利休居士讚

釋迦ハ人ヲ佛ニシ、孔子ハ人ヲ仁ニス、利休ハ人ヲ茶ニス。

送別の歌

賢殊院得住已講

法の海なきつれてゆく友千鳥、ふみたゝへしとあとしのばなむ。

三月盡

闡彰院東瀛贈講師

すがのねの長き春日もけふかぎり、さくらはちりてうの花やさく。

辭世

威力院義導嗣講

遅くとも跡からまいれ諸人よ、彌陀の淨土はわが本家なり。

船中にて阿波某の、法然上人の一枚起請を認め吳よと

請ひしかば、余其文を諳んせず、かく讀みて斷りぬ

八萬四千煩惱主人豪潮時年八十二

往生は南無阿彌陀佛で事足りぬ、夫より外は思はぬがよし。

髑髏の讚

夢に夢結び置きける草の蘆も、吹き解きけり秋の夕風。

雲華院講師書狀の寫

郵便啓白時下秋冷、各藹彌御安穩に御入之段珍重々々、然者易行院病氣御見舞之爲め、遠路總代爲御登、御懇切之至り、老拙も致感佩候、夫に付老拙へも、御菓儀方金二星御遠寄、御深志厚奉レ謝候事に御座候、易行院も遂に養生不相叶、月初西歸、老拙も江州へ御用にて參候、生前に告別候へ共、他行中臨終には居合不申、一入殘念に存候、拙四十三年之同軌之同學今也逝矣、不堪大息候、追悼に、

四十年あまり同じ御法の文車のあとに落るはなみだなりけり。

遺像の讚に

日南尊者、眞宗講師、學解學行、有矩有規、

と申候、

御吹聽可被下候、餘は期再音候以上

八月廿八日(天保五年甲午)

大 合(六十二歳)

寮 司 諸 公

擬寮 司 諸 公

諸 學 生 座

尙々易行院往生に付、去廿五日老拙へ講師被仰付候、再往御辭退申上候得共、是非御受申上(よ)との事にて、無據拜受候、實に過當之至恐入候、併冥加之事に奉存候、御一同に御隨喜可被下候

書 後 雲華院大含講師

(明治三十年在越前武生圓宮寺所見)

元祖聖人一枚御消息、乃覺如上人之眞筆云、江西小松聞名寺舊來所藏、蓋不詳其所、出現住隆成出示、堅田泉福寺主、々々轉覽、越前絲生淨勝院主、々々隨喜讚歎、因願若州慶海集錄帖外御文中載、蓮如上人書寫者、與此相同、彌增所讚、捨財命裓、還納小松本寺、且使余記其由、余亦深感乎

心爲題一語、囑曰、乃子乃孫護持奉行、永爲法寶流通之大因緣、天保八年丁酉秋時正、

題越後柏崎勝願寺茶室、用日南雲華二講師之韻

香樹院德龍講師

法王過處念光殘。風色儼然幾暑寒。財法二施宜可護。三輪清淨五輪看。

題福壽草之畫

福似黃金色。壽凌霜雪來。此花無所競。只伴一枝梅。

二河白道

水波常濕去。火燄亦燒來。遣喚西東響。能令白道開。

夢登富嶽

倏忽芙蓉對客顏。千秋白雪碧雲間。枕衾假我飛仙術。夢裏攀登夢裏還。

書後 香山院龍溫講師

(明治三十年九月一日在越後柏崎勝願寺所見)

大般若經文、源九郎義經筆跡、傳云、南都法泉寺所藏也、噫、豪傑之士、在千軍萬馬之中、尙有修福心、爲斯善事、歟、或北海落魄之後、達于勝敗浮沈不可得空之理、而書此文、歟、可謂奇物矣、往年雲華

講師見贈于當院光君，因今藏于寺。時在文久三癸亥之夏四月，書於勝願精舍得月舍南窓下。

天保甲辰秋八月上弦，辱拜擬講之任，賦此以叙所懷云。

覺明寺知道嗣講文雄幼時隨母往聽此師法話

(明治卅八年四月五日在美濃高桑善覺寺所見)

清風明月雁歸時。芳信傳來擬作師。宗水井深悲短綆。法山花麗歎高枝。  
纔摩曇鏡入容老。仰閱明經駒隙移。今日卒應登級召。赧然褰舉舊簾帷。

濃州智通寺義順上人，有儲藏經之企，文政八年乙酉之秋，請予

令說法募緣，四方檀越，時房中有熊熊之悅，名所生云：經麈聊賦

一律以贈順公，豐東蝙蝠僧雲泉。

華光院圓解嗣講

熊熊入夢有微光。呱呱聲聞閨閣邊。瑞自金仙同七步。才何阿母藉三遷。  
江南橘待懷中熟。六浦珠須衣裏圓。名此以經要底事。法藏八萬數千篇。

題養老瀑布圖

香雲院澄玄贈講師，號如是堂。

(在東京淺草西照寺所見)

孝道感天地。佳名萬里傳。瀧頭飛白玉。樹下湧靈泉。

帝王浴去疾。老者飲延年。喜看千歲景。瑞氣滿樓前。

無題

冷香院潛龍講師

遠寺鐘聲響枕端。東方微白射林巒。讀書窓在深篁裏。冷翠逼人殘夢寒。